



兵庫・にようがもり 祢布ヶ森遺跡

- 1 所在地 兵庫県城崎郡日高町祢布
- 2 調査期間 一九九二年(平4)一月～一九九三年二月
- 3 発掘機関 日高町教育委員会
- 4 調査担当者 加賀見省一
- 5 遺跡の種類 官衙跡
- 6 遺跡の年代 九世紀～一二世紀
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

祢布ヶ森遺跡は、兵庫県北部を北流する円山川中流域左岸の標高二七mの小扇状地に位置している。以前の調査では、木製祭祀具や

木簡・漆紙文書・輸入磁器などの出土もあり、官衙的性格の強い遺跡と考えられている『木簡研究』九。当遺跡の東約五〇〇mには、但馬国分寺、北東約1kmには但馬国府推定地(深田遺跡)が所在する。調査は町立健康福祉センター建設に伴う

事前調査として実施した。

調査の結果、コの字形配置をとると考えられる掘立柱建物群と井籠組の井戸を検出した。

木簡は、一辺が内法で一・三五mの井籠組の井戸から五点(うち削屑三点)出土した。井戸からは他に内面に「田」、底部外面に「菅」と墨書した土師器の杯が出土している。年代は井戸から出土した土器により一〇世紀頃と考えられるが、隣接する建物の柱根からは九七三年、一〇二六年の年輪が読め、一一世紀代に入る可能性も高い。

8 木簡の釈文・内容

(1) $\begin{matrix} \square & \square & \square & \square & \square \\ \square & \square & \square & \square & \square \\ \square & \square & \square & \square & \square \end{matrix}$ [人カ] [文カ] 人 $(167) \times (9) \times 6 \text{ cm}$

他に〇八一型式の木簡一点(長さ一〇二mm幅二三mm厚さ六mm)、及び削屑三点が出土したが、いずれも釈読できない。

釈読は奈良国立文化財研究所の寺崎保広・森公章両氏にご教示いただいた。

(加賀見省一)